

令和6年度決算 高岡北広域町村事務組合財務書類

統一的な基準に基づく財務書類は、原則として平成27年度から平成29年度までの3年間で、すべての地方公共団体や一部事務組合において作成するように要請されています。

(平成27年1月23日付総務大臣通知 「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」より)

これを受けて、本団体では平成28年度決算より統一的な基準による財務書類4表（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産計算書、資金収支計算書）を作成しました。

予算書や決算書など今までの公会計とは別に本団体の財務状況を表す新たな取り組みとして次の財務書類を作成しました。

- (1) 資産や負債の状況などを表す「貸借対照表」
- (2) 人件費や減価償却費などの経費を表す「行政コスト計算書」
- (3) 純資産の一年間の変動内容を表す「純資産変動計算書」
- (4) 資金収支の状況を性質別に3つの区分に表す「資金収支計算書」

以上の4表を表したもののが財務書類と呼ばれています。

また、統一モデル財務書類では、「全体財務書類」の作成についても求められています。その対象となる会計は一般会計のみならず、公営企業会計を含めることとなっています。

本団体の対象会計を下記に示します。

・一般会計、特別養護老人ホーム特別会計、養護老人ホーム特別会計、障害者支援施設特別会計
ふるさと市町村圏特別会計

①全体貸借対照表(BS)

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】			
固定資産		【負債の部】	
有形固定資産	6,223,671	固定負債	2,524,790
事業用資産	5,387,862	地方債	1,415,601
インフラ資産	5,258,850	長期末払金	0
物品	2	退職手当引当金	1,106,033
無形固定資産	129,010	損失補償等引当金	0
投資その他の資産	11,164	その他	3,156
	824,645		
流動資産		流動負債	311,757
現金預金	477,190	1年内償還予定地方債	192,858
	411,150	未払金	0
未収金	0	未払費用	0
短期貸付金	0	前受金	0
基金	53,254	前受収益	0
棚卸資産	12,786	貯金等引当金	115,480
その他	0	預り金	853
徴収不能引当金	0	その他	2,566
		負債合計	2,836,547
【純資産の部】			
固定資産等形成成分		余剰分(不足分)	△ 2,412,611
余剰分(不足分)	6,276,925	純資産合計	3,864,314
資産合計	6,700,861	負債及び純資産合計	6,700,861

貸借対照表とは

貸借対照表は、今年度末に保有している資産と、その資産を取得するために使ったお金の調達方法を表しています。現金の収支に注目するこれまでの決算書では把握できなかった、財産や負債など、これまでの資産形成の結果を知る事ができます。

本団体の現状

これまでに本団体では、6,700,861千円の資産を形成しています。そのうち、純資産である3,864,314千円はこれまでの世代が負担してきた金額であり、負債である2,836,547千円は将来の世代が負担していくことになります。

資産：学校や道路等の将来世代に引き継ぐ社会資本や、投資、基金等将来現金化する可能な財産の総額を示します。

負債：地方債の残高や退職手当引当金などの総額。将来世代が負担する金額を示します。

純資産：公共施設整備の財源として受けた補助金や地方税等の総額。これまでの世代が負担してきた金額を示します。

②全体行政コスト計算書(PL)

(単位:千円)

科目	金額
経常費用	2,484,748
業務費用	2,392,201
人件費	1,533,074
物件費等	852,135
その他の業務費用	6,992
移転費用	92,547
補助金等	89,806
社会保障給付	2,039
他会計への繰出金	0
その他	702
経常収益	1,174,769
使用料及び手数料	95,289
その他	1,079,480
純経常行政コスト	△ 1,309,979
臨時損失	0
臨時利益	37,898
純行政コスト	△ 1,272,081

行政コスト計算書とは

行政サービスを提供する際に発生する支出のうち、資産の取得（土地や建物の購入等）にかかわらない経常的な支出と、行政サービスの対価として得られた収入を計上しています。

本団体の現状

経常費用が経常収益を上回っていますが、これは行政コスト計算書の収入には行政サービスの直接的な収入のみを計上しているためです。

経常収益から経常費用を引いた純経常行政コストは、1,309,979千円になります。これに臨時損失と臨時利益の差額を加えた純行政コストは、1,272,081千円となり、ここで不足分が出た場合は、自治体からの負担金等の財源で賄います。

③全体純資産変動計算書(NW)

(単位:千円)

科目	合計
前年度末純資産残高	3,971,816
純行政コスト(△)	△ 1,272,081
財源	1,166,185
税収等	1,165,626
国庫等補助金	559
本年度差額	△ 105,896
固定資産等の変動(内部変動)	
有形固定資産等の増加	
有形固定資産等の減少	
貸付金・基金等の増加	
貸付金・基金等の減少	
資産評価差額	0
無償償戻等	△ 1,606
その他	0
本年度純資産変動額	△ 107,502
本年度末純資産残高	3,864,314

純資産変動計算書とは

貸借対照表の純資産の部について、増加要因と減少要因を計上し、純資産が1年間でどのように変動したのかを示しています。

本団体の現状

純資産が昨年度よりも増加した場合は、負債の増加より資産の増加の方が多いことを示しています。

純資産の増加要因には、行政サービスの対価として支払われる以外の収入（自治体からの負担金等）があり、減少要因には、行政コスト計算書で算出される純行政コストや有形固定資産及び貸付金・基金の減少があります。

④全体資金収支計算書(CF)

(単位:千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	2,040,545
業務収入	2,336,038
臨時支出	0
臨時収入	0
業務活動収支	295,493
【投資活動収支】	
投資活動支出	213,009
投資活動収入	6,663
投資活動収支	△ 206,346
【財務活動収支】	
財務活動支出	184,277
地方債償還支出	178,599
その他の支出	5,678
財務活動収入	163,400
財務活動収支	△ 20,877
本年度資金収支額	68,270
前年度末資金残高	342,026
本年度末資金残高	410,296
前年度末計外現金残高	1,302
本年度歳外出現金増減額	△ 448
本年度末計外現金残高	854
本年度末現金預金残高	411,150

資金収支計算書とは

貸借対照表の現金が1年間でどのように変化したのかを表しています。現金の使いみちによって、「業務活動収支」「投資活動収支」「財務活動収支」の3区分に分け、どのような行政活動にいくら使ったのかを示しています。

本団体の現状

資金収支計算書から算出したプライマリーバランスの額は、102,376千円となっています。収支の均衡が取れていれば、財政状況が良好であると言えます。今後の財政運営において、収入の見積りとそれに見合つ収支のバランスを考慮していくことが必要です。

基礎的財政収支(プライマリーバランス)

基礎的な財政力を示します。具体的には、基本的な地方税や使用料などの収入及び建設事業に充てられる国や県の支出金の合計（業務活動収支から支払利息支出を除いた金額）と、行政サービスを提供するために必要な費用及び公共施設等を整備するために係る費用（投資活動収支）を差し引きした金額のことです。